

身に付けた「情報収集力」「構成力」の発揮を目指した詩作の活用

実践場面

中学校第1学年

「詩作を通しこれまで身に付けた資質・能力を活用・発揮し、目標に据えた資質・能力の更なる定着を図る場面」

ねらい

意図的に設定しなければ「知識及び技能」の活用・発揮は難しい。そこで書くことの学習に既習の比喻（知・技(1)ウ）や語彙（知・技(1)オ）を関連させることで、身に付けた資質・能力を活用・発揮させられるようにする。

【アイディアのポイント】

リレー詩を学習活動を取り入れることで、自分の感じたことや考えたことを効果的に伝える手段として身に付けた「知識及び技能」を活用・発揮できるようにすることを目指す。

ステップ1 学習順の確認

活用・発揮の場面である詩作の時間を最後に配置します。

月	教材名
5	シンシュン
	詩の世界
7	比喩で広がる言葉の世界
	言葉を集めよう

月	教材名
5	シンシュン
	比喩で広がる言葉の世界
7	言葉を集めよう
	詩の世界



各教材の指導目標が「シンシュン（知・技(1)ウ）」「比喩で広がる言葉の世界（知・技(1)オ）」「言葉を集めよう（知・技(1)ウ）」なので、この三つを「詩の世界」の前に行えば、既習の活用・発揮が可能ね。

ステップ2 学習活動の吟味

既習を生徒自身が活用・発揮できるような学習活動を検討し
単元計画を作成します。

【リレー詩】

リレー詩とは、数名で一つのテーマをバトンとし、リレーしながら一編の詩を書く共同制作詩で、完成までに共同推敲を行うことが特徴である。

言葉遣いや表現技法、漢字・平仮名・カタカナのどの表記が最もふさわしいかなど、多くの意見を得ながら言葉や表現を吟味できること、推敲を経ることで完成後に大きな達成感を得られるという効果が期待できる。

単元計画「詩の世界」

- 1 詩を読んで、感じたことを交流する。
- 2 表現等の効果について話し合う。

〔話合いの視点〕

- ・ 事象や行為、心情を表す語句としてどのようなものが用いられ、どのような効果があるか
- ・ 比喩や反復、倒置など、どのような表現技法が用いられ、どのような効果があるか

- 3 三編の詩の表現を参考にリレー詩づくりを行う。
- 4 学習を振り返る。

参考資料 リレー詩づくりの実際①

- 【リレー詩づくりの概要】
- ① 4人一組で、テーマ「春」をリレーする順番を決める。
 - ② 制限時間は20分とし、リレーの段階で、他のメンバーに対して意見は言わない。
 - ③ 詩が完成したら4人で推敲する。制限時間は20分。

【リレー詩づくりの実際】

- ※活動上の留意点
- ・ 五感（視覚・聴覚・嗅覚・触覚・味覚）で感じたことを必ず一つは入れることにする。
 - ・ 表現方法は形容詞等で直接表現しても、擬音を用いて表現してもよいこととする。
 - ・ リレー詩であることを念頭に、一人一人が前の人の子を受け、何らかの意味でつながりをもたせながら作成する。
 - ・ 詩の構成について、語句の選択について、表現技法の活用についてなどの視点で推敲する。

	④ 春は暖かい	③ ぽかぽか、ほっこり 暖かな日差し	② すべてのものの 命の源 暖かな日差し	① 春はほのほのしている。 あんなに積もっていた雪が溶け 動植物が目覚める	テーマ 春 順番 ↓ ↓ ↓	学習課題 協力して詩を作ろう	月日 リレー詩 氏名
--	------------	--------------------------	-------------------------------	--	-------------------------------	-------------------	------------------

参考資料 リレー詩づくりの実際②

④ 春は暖かい	③ ぽかぽか、ほっこり 暖かな日差し	② 命の源 暖かな日差し	① 春はほのほのしている あんなに積もっていた雪が溶け 動植物が目覚める	テーマ 春 順番 ↓ ↓ ↓	月日 学習課題 協力して詩を作ろう リレー詩 氏名
------------	--------------------------	--------------------	---	-------------------------------	---------------------------------------

春はほのほの ポカポカ、ほっこり あったかい日差し 春は暖かい	命の源 あったかい日差し	すべてのものの 花が咲き 動物が目覚める	春はほのほの 積もった雪がとけ 春はほのほの 積もった雪がとけ 花が咲き 動物が目覚める	テーマ 春 題名 春の役割	月日 学習課題 推敲して詩を完成させよう リレー詩 氏名
--	-----------------	-------------------------	--	------------------------	--



【生徒の様子】

一番目の生徒は書き出しに悩み、時間の半分近くを使ってしまう。さらに説明的になってしまったと、悔やんだ。

それを受け二番目の生徒が五感による表現を試みた。

しかし表現が直接すぎると判断した三番目の生徒が擬音による五感表現を追加した。

四番目の生徒はまとめなければいけないという使命感に駆られ、一番手同様相当悩み、制限時間いっぱいようやく一行を捻り出した。

リレー終了後直ちに共同推敲を開始した。この班が立てた推敲の観点は、

- ①何連にするか
- ②表現技法を取り入れられないか
- ③思いを伝えるのに一番の語句は何かの3点であった。

参考資料 リレー詩づくりの実際③

春はほのぼの
 積もった雪がとけ
 花が咲き 動物が目覚める
 すべてのもの
 命の源
 あったかい日差し

春はほのぼの
 ぽかぽかほっこり
 あったかい日差し
 春は暖かい

テーマ
 春

題名
 春の役割

月日
 学習課題
 推薦して詩を完成させよう
 リレー詩
 氏名

【生徒の様子】

連については五感による表現が二つ続いたのでここで分け、二連構成にした。ここは全員一致で、すぐに決まったようだった。

次は表現技法。意識せずに使っていた二番手の体言止めをそのまま活用した。さらに詩にリズムをもたせるために反復法も使うことにし、それぞれの連の頭にもってくることにした。

最後の使用語句については、より暖かさを際立たせるために、「ぽかぽか」をカタカナに変更した。また、本来は漢字で書くべき「暖かい」を、言葉の柔らかさを表現するために平仮名表記にする工夫も試みた。

生徒はこの共同推敲を通し、もっとよいものに、もっと伝わるものにと意識をもちながら詩作に取り組めるようになったと思う。そしてなによりも、書くことを楽しむようになった。